たかが名前、されど名前

一二三朋子

赤腹井守（アカハラヰモリ）なる両生類の發する性的誘引物質、三十年ほど前、發見せられ、雄の雌に發するを「ソデフリン」、雌の雄に發するを「アイモリン」と命名せられき。命名の由來は『萬葉集』にあり。

茜さす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る　額田王

紫草のにほへる妹を憎くあらば人妻ゆゑに我戀ひめやも　大海人皇子

（西納春雄　令和二年「ソデフリンとアイモリン　あるいは、イモリの戀の物語」（『桂川だより』一三六號）

井守てふ不氣味なる生き物も、「ソデフリン」「アイモリン」なる命名によらば、途端に愛すべき生き物に思はるるは不可思議なり。かやうに、名前の印象に與ふる影響力なむ大なる。歴史上の英雄、宮本武藏あるいは坂本龍馬なども、その名ならざらましかば、かくまで絶大なる人氣は博さざらまし。

人名にはあらねど『源氏物語』の卷名も、物語全體を優美なる王朝絵卷たらしめ、貴族たちの戀愛の華麗さを增さしめけるに效果覿面ならずや。その風雅なる卷名なむ「源氏香」及び「源氏名」などにも使はれ、いまなほ往時の雅を彷彿せしめて已むことなし。紫式部の類まれなる美的感性の鋭さに、ただただ感服するばかりなり。

かたや、名前、物議を醸すことあり。

三十年ほど前、我が子に『惡魔』なる名を付けたる親ありて、役所に受理せられず、新聞などにて大きく報道せられしことありき。昨今は、キラキラネームなる名前、例へば「光宙（ピカチュウ）」「七音（ドレミ）」「泡姫（アリエル）」など、枚擧に暇なし。賛否はあるらめど、親の願ひや好みを押し付くるは、子に取りて大なる迷惑となることもあらむ。子は自らの名を選ぶこと得ず。我、幼き頃、少女漫畫の主人公の華やかなる名前に憧れ、自らの地味なる名前を親にかこちしことありけり。今となりては親に申し譯なく、恥づかしき限りなり。

『徒然草』百十六段に、興味深き記述あり。

寺院の號、さらぬ萬の物にも、名を付くる事、昔の人は少しも求めず、ただありのままに、やすく付けけるなり。この比（ごろ）は深く案じ、才覺をあらはさんとしたるやうに聞ゆる、いとむつかし。人の名も、目なれぬ文字を付かんとする、益なき事なり。何事もめづらしき事をもとめ、異說を好むは、淺才の人の必ずある事なりとぞ。

約七百年前においても、名前に奇拔さを求むる風潮ありて、そを戒むる知識人もをりしこと、

今と變はることなし。さはあれど、當時のキラキラネーム、いかなるものなりしか、興味は盡きず。

昨今の奇を衒ふに過ぐる命名を規制する改正戸籍法、令和七年より施行せり。これにて、キラキラネームの減るや否や。ちなみに、愛玩動物に、思ひの外、古風なる名前、散見せらる。「小太郎」「こてつ」「花」「あずき」など庶民的なる名前もあれば、「菊千代」「蘭丸」「松風」など、殿様並みの名前さへあり。我が愛犬の名前、「もも」と「くるみ」なり。平凡なれど、飼ひ主の愛情、珍奇なる名前の犬の飼ひ主に、聊かなりとも劣るものかは。

（令和七年十二月十七日受附）